

8 木簡の釈文・内容

(1) 「粂四斗御□中

(202)×18×8 011

木 簡 研 究 第三号

(2) 「御倉粂四斗三郎太郎□□」

232×19×5 011

卷頭言——中国簡牘呼称についての提言——

大庭 僥

(1) は下端に焼痕があり、わずかに欠損している。二点ともに泥炭

層からの出土であり、鎌倉時代後半に比定される。釈文中の粂四斗の表現から一俵の米俵を意味したものと思われる。

9 関係文献

北九州市教育文化事業団 『辻田西遺跡』(北九州市埋蔵文化財調査報告書第十三集)

一九八二年  
(栗山伸司)

概要 平城宮・京跡 平城京左京(外京)五条五坊七坪 藤原宮跡 稲田遺跡——下ツ道—— 長岡京跡 大藏司遺跡 西沖遺跡 御殿・二之宮遺跡 野路岡田遺跡 多賀城跡 漆町西遺跡 桜町遺跡 白山橋遺跡 御館遺跡 御着城跡 鶴・城山遺跡 草戸千軒町遺跡 野田地区遺跡 観世音寺僧房跡 大宰府学校院跡東辺部

一九七七年以前出土の木簡 (3)

平城宮跡(第二一次・第二三次北)

薬師寺 下岡田遺跡

中国における簡牘研究の位相

庸米付札について

静岡県城山遺跡出土の具注曆木簡について

草戸千軒町遺跡出土の木簡——形態を中心にして——

原秀三郎  
狩野久  
志田原重人

彙報

価格 三五〇〇円 一四〇〇円